

# アマゾン精霊の話



「宮島とアマゾンをつなぐもの」  
 長老ラオーニ・南研子講演会 場所:大聖院観音堂 参加者:100人

夜の聖院は、また昼間と違った姿を見せます。静寂のなか灯明が灯された観音堂で、座主吉田正裕さんの般若心経の読経から始まりました。ラオーニは「私はいつも精霊と話しをし、精霊とともに生きてきた。みんなは精霊が見えるのか?感じることができるのか?」と問いかけ、カヤボに伝わる神話も披露し自らの体験も話しました。言葉の意味を知るのには、ベッポーがポルトガル語に訳し、ポルトガル語を通訳の下郷さとみさんが日本語に訳すのですが、ラオーニの話すカヤボ語は、力強くこちよい響きを持っていて聞いているだけでチカラをもらえるようでした。3人のインディオを日本に迎えるために、奔走し頑張ってきた代表の南研子からは「90歳を超えたラオーニが今ここに居ることは、まさに奇跡的なこと!」と感慨無量でした。

# 歓迎レセプション



広島日伯協会主催 場所:広島アークホテル 参加者:約60人

広島日伯協会名誉会長筒井数三さんとの再会もラオーニは楽しみにしていました。二人は同年代であり激動の時代を生きて来られました。言葉は通じずとも心が通いあう瞬間です。広島はブラジルと深い関係があり、ブラジル人留学生もたくさんいます。留学生のモリドグラスさんは滞在中ずっと彼らの世話をしてくれました。

# The Spirit of Amazon アマゾンシンブーインディオ工芸品展示会



場所:ギャラリーてんぐスクエア 来場者:約800人  
 10月3日(金)~7日(火)

カヤボ族の写真や生活工芸品など150点あまりの展示。ちくわ先生のワークショップの開催。



## 終わりに



国際NGO活動もいろいろありますが、特にブラジリアマゾン活動を拠点にすることは、距離的にも場所的にも難しい面がいろいろあります。熱帯森林保護団体(代表南研子)が25年間続けてアマゾンのジャングルに通いインディオとの交流を続けてきたのも、偉大な長老ラオーニの存在の大きさが90歳を過ぎてなお精力的な活動を続けるラオーニの姿はいつも勇気と希望を与えてくれます。ラオーニが2007年来再び広島の地を踏むことは広島で活動する私たちにとっても夢のようなことでした。地球環境はますます厳しくなっています。それは自然の声に耳を傾けることなく自分たちの都合を優先してきた結果なのかもしれません。森と共に生きてきたインディオの姿から教えてもらったことは、何よりも優先させなければならないものは何なのか?大切なものは何なのか?ひとりひとりが考えてみるということです。自然の循環のなかで私たちもインディオも生かされているのは同じです。自然をアマゾンを感じながら少しずつでも行動していけたらと思いました。今回のイベントは、ヤンアマスタッフや日系ブラジル人も加わり若い人たちがボランティアで参加してくれたことも大きな力となりました。個人・団体・企業の多くの皆さま方からの資金的な援助も本当にありがたいことでした。これからも広島で地道な活動を続けてまいります。

熱帯森林保護団体ひろしま 代表 松岡敏子

# The Spirit of Amazon 2014年宮島とアマゾンがっさがる!!

地球の酸素の4分の1を産み出すアマゾンの森、そこに暮らす森の守り人・インディオ、今どちらもが文明の波にもまれ、消滅しようとしている。森からのメッセージを携えて、ジャングルからインディオ達はやってきた。アマゾンと宮島をつなぐものは大いなる自然の神々たち。

## 熱帯森林保護団体ひろしま 2014/12 活動報告

# インディオがやって来た!



10月16日から21日まで、ブラジル・アマゾンのジャングルから3人のインディオがやってきました。カヤボ族長老のラオーニは、3度目の来日で広島は2007年以来7年ぶり、孫にあたるブライリ・ベッポーは、初めての海外旅行!関空から一路広島へ、約2万距離の移動で着いた広島、不安を隠せない表情で私たちスタッフとご対面!広島滞在中は様々なイベントを私たちスタッフは計画をしました。特に原始の森が残り、神々の島と言われる宮島での活動が、主な会場でした。

# 講演会



アマゾンの環境問題の現状 場所:広島修道大学 学術ホール 参加者:学生約200人

熱帯森林保護団体代表南研子からアマゾンの現状の説明と、インディオの生活ぶりの紹介に続き、ラオーニからは「インディオの居住地が年々狭められ、森の伐採からアマゾンの気候の変化も著しく、ジャングルでの暮らしは難しくなっている。ブラジル政府はインディオの声に耳を傾けることなく開発を進めている」ことなどスピーチし、若者へむけて「もっと学びなさい」と激励をしました。7年前も同じ場所で同じように訴えたラオーニ、今回も多くの学生がアマゾンの現実とラオーニの想いに感銘を受けました。



アマゾンからのメッセージ 場所:広島経済大学宮島セミナーハウス成風館 参加者:一般100人

アマゾンの現状とインディオの暮らしぶりを踏まえて、大切なものは何だろうとみんなで考えてみました。命・自然・友達・家族...たくさんの言葉が思い浮かびます。ブライリは「森がすべて、インディオは森がなければ生きていけない。森が壊されている状況に私たちの暮らしもますます大変になってきている」と訴えました。意識・調和・霊性など精神的なものの大切さを考える人もいました。広島経済大学興動館の学生とRFひろしまのヤングスタッフで協働し準備をしましたが、当日もみんなで気持ちよく動けたこともよいことでした。



森とともに暮らすインディオのメッセージからは、自然との関わり方、感謝の心や謙虚な気持ちの大切さなど、私たちが利便性を優先して普段目を背けがちな、とても大切なことを真っ直ぐ教えてください。今日すぐに生活を変えることは難しいかもしれませんが、事実を理解し、こういった意識を持つことで、自分ができることから環境について考えていくことが大切なのではないでしょうか。一人ひとり「大切なもの」は違いますが、それを守るために必要なことは

意外と似ているのかもしれませんが。明るい未来がないと、大切なものを守ることにはできないのですから。生きていけば、人とも自然とも、文明や科学とも、それこそ地球上のすべてと必ずどこかでつながっています。全てのものとのつながり「絆」を感じることで、一人ひとりが誰かのために、何かのためにできることをやっていたら、明るい未来は約束されている気がします。そんなことを考えました。 興動館スタッフ(ブログより)

